

1月26日(土)、写真や絵画を通して、身近にある景観を再発見し、景観を楽しむことへの理解を深めるために「身近な景観を見つめ直す」をテーマに景観シンポジウムを開催しました。

当日は、多くの市民の皆さんにご来場いただきました。

準グランプリ

『東仙道花咲かせ隊』



花を沿道に設置し、訪れた人の目に触れることで、地域内外へアピールできる活動である点が評価されました。

選考委員特別賞

『本俣賀町東上組有志の会』



ハデ干しそのものの景観が珍しい時代にヨズクハデの取組を継続している点が評価されました。

選考委員特別賞

『安田振興菜の花会』



菜の花の連作障害の改善策として、「コスモス」に切り替えて活動を継続した点が評価されました。

【小学生部門】応募数：86点

グランプリ

『ばんりゅうこで コイのえさやりをしたよ』

澄川 宇希 さん

懐かしく思い出深い景観であり、当時の映像が浮かんでくる作品です。



学校賞

- ・都茂小学校
- ・鎌手小学校
- ・益田中学校

2. 講演

第2部では、写真家の秋野深氏に『“益田らしさ”のある景観～魅力を見つける目と意識～』と題し、これまでの景観フィールドワーク講座や景観啓発講座「Photo Walk Kamate～大浜地区～」での活動報告を交え、景観の特徴や魅力を見つける際に意識するポイント、秋野氏の見つけた“益田らしさ”のある景観についてお話いただきました。

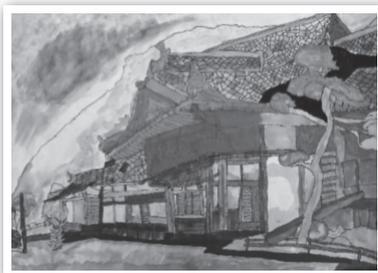
講演の中で、身近な景観を見つめ直すには、「もう知っている」と思わずに、ゼロから見直してみることや、漠然と眺めるだけでなく、写真を撮るなど主体的に景観と向き合うこと、無意識に見るのではなく、観察の切り口をもって見直してみることが重要であり、“益田らしさ”のある景観とは何かを改めて考える機会となりました。

来場者からは、「益田に住んでいて当たり前となっている景色も、秋野先生の講演を聞き、景色の美しさは当たり前ではないのだと思いました。」という感想が寄せられました。

準グランプリ 『益田市のほこり』

笹倉 瞬 さん

益田の歴史文化を明るい色彩で表現した心和む作品です。



選考委員特別賞

『美しい赤い門』

高浦 夏歩 さん



益田市の誇りを力強く表現した、作者の感動が伝わってくる作品です。

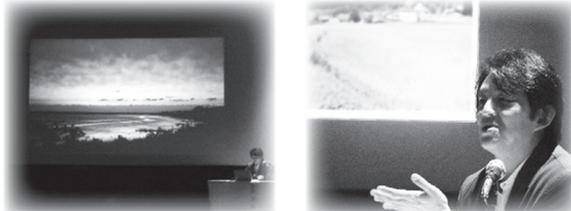
選考委員特別賞

『たいへんな毎日』

足立 有 さん



働く人に目を向けて、漁港の活気をそのまま伝える作品です。



“益田らしさ”のある景観 開催報告

1. 第7回 益田市景観賞表彰式



第7回益田市
景観賞の表彰式が、
シンポジウム内で
行われました!!

景観まちづくり活動部門

グランプリ
『ジャスミンの会』



応募総数
6件

ヒマワリ栽培を核とし、ヒマワリ迷路の設置やヒマワリ油を使った化粧品を商品化するなどの多様な活動を展開している点が評価されました。

景観絵画コンテスト部門

【一般・高校生部門】応募数：29点

グランプリ 『秋に光り輝く赤瓦(島田家)No.1』
渡辺 聖梨 さん



石見の風景を象徴する赤瓦屋根の持つ景観的な魅力を表現した作品です。

【中学生部門】応募数：64点

グランプリ 『すみよし神社から見える益田市』
福間 新太 さん



益田市が自然に囲まれたまちであることを気づかせてくれる作品です。

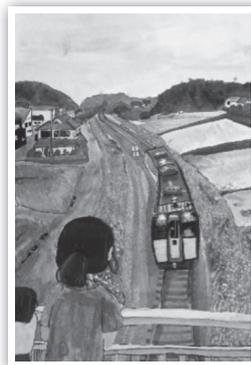
応募総数
179件

準グランプリ 『海に浮かぶ衣毘須神社』
石川 悟士 さん



白波が立つ日本海を丁寧に描き、波の音や海の冷たさを感じさせる作品です。

準グランプリ 『菜の花に
囲まれている列車』
松田 青 さん



1枚の写真のような美しい風景が広がる作品です。

選考委員特別賞
『飯田橋』
田村 己代恵 さん



飯田吊橋(飯田橋)を心の目で描いた作者の感性を強く感じる作品です。

選考委員特別賞
『益田川』
竹本 悠斗 さん



川の水面と空のどちらもが丁寧に彩色された美しい作品です。

選考委員特別賞
『ホーランエーを待つ船達』
渡辺 奏太郎 さん



勇壮な船神事を待つ様子を夏らしく色鮮やかに描いた作品です。